2010年 4月22日（木）
毎　日　新　聞
【新聞定価1ヵ月3,925円(本体3,738円)】1部売り(消費税込み)朝刊130円 夕刊50円　(第3種郵便物認可)

門出サポート

一人親の阪大生に奨学金

学生運営NPO　塾で教えて返済

大阪大学の学生たちでつくるNPO「@schoo l」(アットスクール)が、一人親家庭の阪大生を対象にした奨学金事業を来年度から始める。中高生向けの塾を運営し、奨学生が在学中に講師を務め返済する仕組み。自身も母子家庭に育った渡剛代表(20)は大学進学を断念しかけ、自殺も考えるほど苦しんだ。「努力する意欲すら失われている子が多い。すべての子が頑張れる環境をつくりたい」と意気込む。【反橋希美】

熊本市出身の渡さんは物心ついた時から、父親がいなかった。母(59)が保険外交員として働き、兄2人と祖母の5人暮らしを支えていた。中学生の時、ヤミ金融からの電話を取ったことも。家のことを忘れるため「教師」という夢に向かい、勉強に打ち込んだ。

かいあって地元の進学高に入学。だが3年の夏。「大学に入る時、国公立でも100万円はかかるよね」。何気ない友人との会話で、打ちのめされた。無力感で「死にたい」と、母に手紙を書いた。

数カ月後、父を語らなかった母が「最近、お父さんが死んだ」と切り出した。家庭がある人で結婚できなかったこと、息子を気にかけ、体育祭を隠れて見に来た数週間後に自殺したこと……。涙が止まらなかった。遺産で阪大の入学金や当面の生活資金を工面できた。「子どもがお金を心配せずに勉強できる環境を」。渡さんの夢は変わり、応援してくれる友人も集まった。

新事業は、既存の大学奨学金が「入学金の納付期限に間に合わない」ことに着目。阪大を受験予定で、NPO運営の塾で働く意志のある学生を公募、大学合格発表後から1年次の間に上限50万円を無利子で貸与する。大阪府貸面市内の塾は個人指導形式。受講料は1時間2000円から（一人親家庭1200円）、奨学生は時給1500円のうち500円を返済する。

塾のカリキュラムなどについて話し合う渡さん（右から2人目）らメンバー＝竹内紀臣撮影

19日に始まった塾では生徒を募っており、奨学生は来年度から公募する。渡さんは「『ありがとう』を言えないまま、父は死んだ。奨学金で進学できた子が親に感謝を伝えられれば」と話す。支援会員や協賛企業も募集中。問い合わせは渡さん（070・6684・3569）へ。

Newsプラス　母子家庭の貧困

卒業時に多額の負債

厚生労働省の調査によると、一人親世帯の相対的貧困率は06年時点で54.3%。経済協力開発機構（OECD）加盟30カ国中、最悪の水準だ。「大人が2人以上」の世帯は10.2%で、その差が際だっている。全国母子寡婦福祉団体協議会が昨年8～12月、全国の母子家庭を対象に行った調査（回答1298人）では、約85%という高い就労率の一方、昨年1年間の収入平均は195.5万円（児童扶養手当などを除く）。

文部科学省によると、国立大の年間授業料と入学金は計約82万円で、私立大の初年度納付額（平均）は約131万円（いずれも08年度）。大学奨学金のほとんどは貸与型で、卒業と同時に多額の負債を抱える奨学生は多い。渡さんらの事業について、東京大大学総合教育研究センターの小林雅之教授（教育社会学）は「知っている範囲では聞いたことがない。入学金の納付期限に間に合う奨学金は、確かにニーズがある。学生同士が支え合える仕組みは、うまくいけば非常によい」と話す。